【発行元】村田きょうこ後援会
【お問合せ】村田きょうこ事務所 〒100-8962 東京都千代田区永田町 2-1-1　1222 号室 TEL03-6550-1222

第 217回通常国会

村田きょうこ 「今回の質疑のポイント」 No.14

2025 年 5 月 20 日（火）経済産業委員会

ご安全に！　参議院議員の村田きょうこです。5月20日(火)、経済産業委員会で一般質疑を行いました。今回は、例年以上に暑くなると予想されている今夏の熱中症対策の重要性、ならびに授業料無償化によって工業高校への進学者が減少するのではないか、という2テーマを取り上げました。

1. 各省の熱中症対策は？

【政府答弁】
・厚労省：作業者の異変把握、救急対応手順の明示、周知を事業者に義務づける制度改正の実施。
・環境省：「熱中症警戒アラート」や「暑さ指数」等の情報発信を通じた、熱中症への注意喚起。
・経産省：エアコンの早期点検・修理の呼びかけ。

2. 現場に即した支援が不十分。熱中症予防機器の導入や、それらを開発するための研究・設備投資支援は？

【政府答弁】
・労働生産性の向上を考えれば熱中症対策の商品化への応援は必要。
・今は、熱中症の予防対策機器、ウェアラブルの熱中症予防のデバイスなどいろいろなものが開発されているが、更なる熱中症対策に資する取り組みを行う。

3. 高校授業料無償化が工業高校への入学志願者、ものづくり人材に影響する懸念あり。政府の見解ならびに対策は？

【政府答弁】
・高校無償化は公立高校へ一定の影響があり、産業経済や物づくりを担い、地域産業の発展を支える人材の育成に影響を及ぼす可能性がある。
・この点については、高校無償化等に関する三党合意の中でも論点の一つとされている。
・製造業において大事な人材なので、いろんなハレーションが起きないように、高校無償化による工業高校入学者への影響については注視してまいりたい。
・DX ハイスクールやマイスター・ハイスクール等の事業を通じ、AI、データ分析、地域産業との連携強化など魅力化を図っている。
・徐々に増加している女子生徒を含め、工業高校生徒の増加のために出前授業やホームページ等での啓発活動も進めている。

※詳細は次頁以降、または YouTube をご覧ください。

1．各省が実施する熱中種対策について

【課題認識】
・近年、熱中症による労働災害が増加しており、特に 2024 年には 30 名の死亡者を記録している。
・各省とも熱中症対策を講じてはいるが、屋外や高熱の現場で働く作業者への熱中症対策支援をもっと積極的に行うべきではないか。

村田：厚生労働省では六月一日から改正労働安全衛生規則が施行されるが、働く皆さんや産業、企業向けに行っている熱中症対策として、どんなものがあるか。
政府参考人：事業者に対し、熱中症のおそれがある作業者の早期発見のための体制整備、熱中症の重篤化を予防するための措置の実施手順の作成、事業所の見やすい箇所への掲示やメール送付等の体制及び手順の周知を義務付けることとしている。

村田：環境省で産業、企業向けに行っている熱中症対策、どんなものがあるか。
政府参考人：環境省では、令和六年四月に全面施行した改正気候変動適応法に基づき、国民に対し、暑さ指数のメディアと連携した情報の発信、熱中症特別警戒アラートを運用している。これらの情報発信は、企業で働く労働者やその管理者を含む国民に熱中症予防を効果的に行っていただくことに資する有益なものだと考えている。加えて、国民への熱中症予防行動の広い呼びかけを促す目的で、関係府省庁や産業界とも連携して、ポスター、リーフレットなどを用いた普及啓発やSNSを活用した情報発信を実施しており、熱中症環境保健マニュアルにおいては、労働環境での熱中症予防の取組事例なども紹介している。

村田：経済産業省が行っている熱中症対策、どんなものがあるか。
政府参考人：経済産業省では、熱中症対策として業界団体と連携してエアコンの早期点検を呼びかけている。例年、エアコンの設置や修理は暑くなってから急激に需要が増え、対応が後手に回る傾向にあるため、SNSや啓発ポスター等を通じてシーズン前にエアコンの試運転を行うよう広報を行っている。

村田：エアコンの適切な利用の呼びかけだけで、本当に十分なのかと思う。製造業の働き方に合わせた熱中症対策をしていくことで、より快適な環境で働くことができれば、労働生産性も上がっていくし、暑さ対策もできていれば、若い皆さんも物づくりの現場で働いてみようかとなると思う。製造業の現場では、ファンつき作業服やウェアラブル端末、遮熱設備、シャーベット状の経口補水機械など、熱中症対策にはいろんなものが必要で、それらが国内で作られ利用促進されれば、産業、経済の活性化にもつながっていく。研究開発や設備投資の支援策を経済産業省としてやっていくべきだと思うがいかがか。
武藤経済産業大臣：ここ二年、三年特に異常にちょっと暑い夏が続いている中で、労働生産性の向上を考えれば熱中症対策の商品化への応援は、是非やっておかなきゃいけない話だろうと思う。もの補助や、熱中症の予防対策機器、ウェアラブルの熱中症予防のデバイスなどいろいろなものが開発されているので、私どもとしては、革新的な新製品、サービス開発のための設備投資等の支援を進めているということであると思うが、更に熱中症対策に資する取組を我が省としても取り組んでまいりたいと思っている。

村田：環境省の、工場における先導的な脱炭素取組推進事業というCO_2削減のための補助金制度で、結果的に工場のクーラーの設備更新ができて熱中症対策になったであるとか、遮熱の設備もこの事業で入れられて熱中症対策になったという話を聞いた。CO_2削減、熱中症対策両面にも使えますよ、というPRもあるんじゃないかと思うが、いかがか。
政府参考人：環境省では、建築物のZEB化や省CO_2化普及対策を行っており、この中で、業務用施設については、省CO_2化、熱中症対策などを支援する事業を講じている。

２. 工業高校への入学志願者減少懸念について

【課題認識】
・高校授業料の無償化により私立高校への志向が高まることで、工業高校の入学者数への影響が問題視されている。
・工業高校は全国で高い求人倍率（約 27 倍）を示しており、製造業等の現場に不可欠な人材供給源のため、教育内容・設備の充実、教員の質向上、キャリア支援の強化が必要である。

村田：高校授業料の無償化によって私立高校への入学希望が増え、工業高校の入学者が減少するのではといった懸念がある。実際、全国知事会、教育長協議会が、公立専門高校への支援も充実していかないと入学者が減るといった要望も出している。この点に関する文部省の見解は如何か。
政府参考人：いわゆる高校無償化については、公立高校への一定の影響があるものと考えられる。工業高校の生徒数については、約〇・三％が国立、約八八・四％が公立に、残りの約一一・三％が私立に在学しており、仮に公立の専門高校が減少した場合には、我が国の産業経済や物づくりを担い、地域産業の発展を支える人材の育成に影響を及ぼす可能性があると考えられる。こうした点については、高校無償化等に関する三党合意の中でも論点の一つとされていることから、今後、議論の進捗状況、また国会における御審議なども踏まえつつ、文科省としても引き続き工業高校を始めとする専門高校の教育の充実に取り組んでまいりたい。

村田：高校授業料の無償化で工業高校の入学者が減少し、工業高校卒業後に物づくりの現場で働く人が減少すれば、現場の人手不足に拍車が掛かる、といった声を労働組合からも会社からも聞く。これへの見解ならびに工業高校の課題について産業、企業から要望を聞いているか。
武藤経済産業大臣：製造業においては、高校を卒業して就職する人材は物づくりを担う重要な存在であるため、人材育成を着実に進めることは当然重要だと思う。工業高校に関する産業界のニーズ等については、経済産業省が橋渡し等をして立ち上げた半導体や蓄電池、ロボット分野における産学官の人材育成コンソーシアム等の中で聴取をしている。いずれにしても、大事な人材なので、いろんなハレーションが起きないように、高校無償化による工業高校入学者への影響については注視してまいりたい。

村田：令和五年度の工業系の専門高校の求人は、全国で二十七・二倍と、人材としてすごく必要とされている。だからこそ、私立の高校授業料無償化が始まるまでに、教える人材や設備の充実、卒業後のキャリア形成支援などのPRによって工業高校の魅力を高めていただきたい。また、製造業でも現場で女性が活躍していることから、工業高校に女子生徒を増やす取組も併せて必要だと思うがいかがか。

政府参考人：文部科学省においては、DX ハイスクールやマイスター・ハイスクールなどの事業を通じて、AI 等を活用したデータ解析実習や、産業界一体となった職業人材育成、地域人材の育成など、工業高校を始めとする専門高校の特色化、魅力化を図っている。また、令和六年度学校基本調査によると、工業高校における生徒の男女比は、十年前と比較して女子生徒の比率が3％増加し9．9％と上昇傾向にある。工業科の魅力を中学生に広く知ってもらうための出前授業などを通じて、女子生徒を始めとする工業高校の生徒を増やすための取組を進めていただいている。

以上